商工費1億4000万円を追加

環境経済委　新型コロナ関連で支援

市議会

富士市議会6月定例会は18日、環境経済委員会（鈴木幸司委員長）を開いた。本会議で付託された令和2年度一般会計補正予算案と、新環境クリーンセンター循環啓発棟の指定管理者の指定に関する議決について審査し、いずれも原案通り可決すべきとした。

補正予算案では、商工費に1億4072万5000円を追加。中小企業金融対策や産業交流展示場「ふじさんめっせ」の管理事業などを対象としている。

中小企業金融対策費では、県と協調して実施している経済変動対策貸付金の利子補給金と事務負担費合わせて1億3072万5000円を盛り込んだ。

同貸付金融資制度は、売上の減少や原材料などの高騰に直面する中小企業者などの経営安定のために必要な設備・運転資金を貸し付けた金融機関に対し、利子補給金を交付する制度。現在は普通保証のほか、7月31日まで新型コロナウイルス感染症対応枠が設けられており、融資総額200億円、利用件数725件が見込まれることから増額を求めた。

ふじさんめっせの管理事業費では1000万円の追加を求めた。同施設では新型コロナウイルスの感染拡大の影響で貸館利用が減少し、収入が大幅に減少しているためで、施設を正常に運営管理することを目的に管理事業費用に充てる。

新環境クリーンセンター循環啓発棟の指定管理者に関する議決では、外部有識者などで構成されている「市都市基盤施設指定管理者選定評価委員会」の審査結果を当局が説明。指定管理団体をクリーン工房（本社・埼玉県さいたま市）とし、指定期間を今年10月1日から令和8年3月31日までとすることが報告された。

大淵に建設中の新環境クリーンセンターは工場棟、資源回収棟、循環啓発棟の3棟で構成され、今年9月末に竣工予定。このうち循環啓発棟は、資源循環やエネルギー循環の利用を一体的に学習する場として、市民の意識向上と交流の場、健康増進を目的に設置され、温浴が楽しめる余熱利用体験施設と、環境啓発・環境学習に関する施設などが設けられる。

政府の布マスク募る

飲食組合富士吉原支部　必要な人に届けよう

静岡県飲食業生活衛生同業組合富士吉原支部は、政府が全世帯へ配布した布マスクを必要としない人からの寄付を募っている。

富士市社会福祉協議会を通じて、必要としている子供たちや施設に贈るのが目的。新品・未開封品に限り、7月中旬ごろまで受け付ける。

同組合事務所への持ち込みを呼び掛けているが、来訪が難しい場合には事前の電話連絡で引き取りに出向く（富士市内のみ）。郵送も歓迎。宛先は飲食組合富士吉原支部（〒417－0051富士市吉原4－5－16塚田ビル3階）。

全世帯向けの布マスクは、安倍晋三首相が4月1日に2枚ずつ配ると表明。5月中の配達完了を目指していたが、発送開始当初、不良品が見つかったこと